

無石碑、作一小石室、而設裏小佛石像耳、制大行於民間、遇塗于官吏、不拘尊鄙、下馬捨蓋、跪于車塵、馬蹄之間、官吏不逝、則不敢去、勵業勤農、素長織絹、故地產綾絹花紋絹矣、山間之小民、根利山重君恩、不顧己貧、孜奉賦稅矣、仕士尚儒、重書、或長射、或能御、性素質朴、無貴賤之品、各以木綿爲服、然退讓談話、不亂其序矣、

名所
〔日本鹿子九〕同國野○上名所之部

黑髮山 むば玉の黒髮山を朝越て、木の下露にぬれにけるかな

佐野 道遠き佐野の舟橋夜をかけて月にぞわたる秋のたび人

伊香保沼 いかほのやいかほの沼のいかにして戀しき人をいまひとめみん

吾妻川 北より南へ流る、大川也、すそほとね川也、

衣の關 戸根川 碓氷峠

雜載

〔延喜式兵部二十八〕諸國健兒略○中 上野國一百人略○中

諸國器仗○中 上野國征六、額、横刀、廿口、弓、册、張、箭、册、具、胡、藤、册、具、

〔日本書紀二十、二十一〕九年九月戊子、新羅之間諜者迦摩多、到對馬、則捕以貢之、流于上野、

〔日本書紀二十六、二十七〕四年十一月戊子、捉有間皇子與守君大石、坂部連藥、鹽屋連鱒魚、送紀温湯、○中流

守君大石於上毛野國、

〔續日本紀元六〕和銅七年十月丙辰、勅割尾張上野、信濃、越後等國民二百戶、配出羽、柵戶、

〔三代實錄清和〕貞觀七年五月十七日丁酉、上野國言、加舉權任國司公廩料稻七萬束、從之、

〔吾妻鏡十九〕承元四年九月十一日丙申、故足利又太郎忠綱遺領、上野國散在名田等、此間稱尋出之、

安達九郎右衛門尉景盛、令注進、仍被補新地頭、

〔吾妻鏡二十〕建曆二年八月廿七日庚子、安達左衛門尉申、上野國奉行辭退事、今日有其沙汰、無恩許、